

"日本で一番有名な農家"は、たぶん無 農薬・無肥料でリンゴを栽培している青森 県岩木町の木村秋則氏だろう。2006年に NHKの番組で紹介されてブレイクした後、26 万部のベストセラーとなった『奇跡のリンゴ』 を筆頭に、何冊も本が出ている。農家・非農 家を問わず、これほど人々を惹きつけている 「木村秋則」現象の実態とは何か?

取材・文/編集部、鈴木 エ



木村秋則さんのリンゴは、 来るべき未来への 叡智を与えてくれる 智恵の果実だ。

版 原料学者 茂木健一郎

幻冬会。 定值(本体1300円+税)

男の物語。 成し遂げた を ライト兄弟よりも ュートンよりも、

『奇跡のリンゴ』は普通のリンゴ農 にも及ぶ試行錯誤があり、その間農 にも及ぶ試行錯誤があり、その間農 にも及ぶ試行錯誤があり、その間農 にも及ぶ試行錯誤があり、その間農 にも及ぶ試行錯誤があり、その間農 をでれで詫びようと、ロープを 対戦を死んで詫びようと、ロープを 中の被害もなく、見事な枝を張り、 中の被害もなく、見事な枝を張り、 なのだと気付く、という話だ。

ことが特数の一つだ。

は、そこから着想を得た経緯がるのは、そこから着想を得た経緯がるのは、そこから着想を得た経緯がるのは、そこから着想を得た経緯がるのは、そこから着想を得か終れる。福岡正とが特数の一つだ。

もっと深く興味を持っている読者

「経過は若干、オカルト的な

実際に圃場に行って

中の糸状菌群が非常に多いこと、そ畑を見て樹を見て感じた事は、土壌

今回、本誌読者の間で木村秋則氏の本がどれだけ読まれているか、また、そもそも「自然農法(当初は編た、そもそも「自然農法(当初は編た、そもそも「自然農」(当初は編まるアンケートを実施した。21ページにその質問内容と、44人の読者かジにその質問内容と、44人の読者から得られた回答を集計した。

やはり気になる存在回答者の55%が既読

経プレミアシリーズ)が続く。でダントツ。そして『リンゴが教えでダントツ。そして『リンゴが教えでダントツ。そして『リンゴが教えでが何らかの木村秋則氏の本を読んでが何らかの木村秋則氏の本を読んでが何らかの木村秋則氏の本を読んでが何らかの木村秋則氏の本を読んでが何らかの木村秋則氏の本を読んで

本に関するコメントには、農業者 をしての姿勢についての意見と、物 としての姿勢についての意見と、物 に自然を受け入れて、自然に沿った はうに作目を作る姿がすばらしい」 は一形県・M氏・農協職員)「自然観 のる様に思う」(福井県・K氏・農 ある様に思う」(福井県・K氏・農

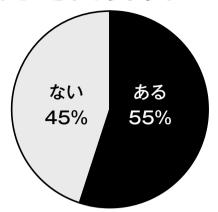
introduction

本誌読者にアンケート 「木村秋則」現象に思うことは?

農業に関わる読者諸兄としては、やはり気になる存在。本誌読者の間で木村秋則氏の 本がどれだけ読まれているか、どう感じているのか、賛否両論のコメントを集計してみた。

「奇跡のリンゴ」は、なぜ売れたのか 「木村秋則 | 現象を追う~

Q.読んだことがありますか?



・アンケート実施機関:2010年9月6日~12日 ・有効回答数:44件

読者アンケートの質問内容

- 『奇跡のリンゴ』などで知られる木村秋則さんの一連の 著作(テレビ・DVD含)を読んだことがありますか?
- 実際に読んでみて、農業経営者・農業関係者だからこそ 感じたこと、学んだこと、様々なことをお書きください。
- 現在、マスメディアを中心に"自然農法"という言葉が Q.3·人歩きしているように思われます。その点につき、ど のように思われますか?

み方、

特に動植物に対する観察眼に

ければならないと思います。また、

は非常に共感できますし、

見習わな

備わってきているのではと思いまし

う産業とは別なものということを前

の生き方や思想なので、

農業とい

(山形県・S氏・農業者)

ح

また

「農業技術への取り組

コンサルタント)「自然農法自体は 提に話を進めるべき」(東京都·A氏· れによって、樹自体に

^自然治癒力

読んだ本ランキング

第1位 奇跡のリンゴ 石川拓治=著 幻冬舎

第2位 リンゴが教えてくれたこと 木村秋則=著 日経プレミアシリーズ

第3位 すべては宇宙の采配 木村秋則=著 東邦出版

> あなたの人生に奇跡のリンゴを作る本 木村秋則、石川拓治=著 小学館

木村秋則と自然栽培の世界 木村秋則=責任編集 日本経済新聞出版社

自然は安全なのか

と何もしない自然に任せるというよ うなのだろうか?「自然農法という 生物など科学的な裏付けがあると思 つなイメージがありますが、 · N氏·公務員)「自然農法 で、その部分の解説が必要 技術ではなく昔か 土壌微

青果物流通業)という辛口の意見も れば、?、だし、遅すぎるのではな ません。剪定技術がデタラメでした。 量が少なすぎて、プロ向けではあり かったらしい。それが、プロから見 あまりおいしくない」(東京都・S氏 に疑問を投げかける意見もあった。 根に関心を持つのに10年くらいか 人歩きするイメージ その一方で、農業者としての姿勢 さて技術として「自然農法」 (岐阜県・S氏・農業者) はど

> ある、 S氏・農業者)と議論が分かれた。 必ずしも良いとは思いません」(栃 がどのようにして作られているのか 呈するコメントが多かった。「作物 性を安易に結びつける動向に疑問を 守られてきた農法。 農薬を使用していないから、 木県・N氏・農業者)「化学肥 が、これは作り手の言い分であって、 んでいる人が多くいると思います 聞いただけで安全な食べ物と思い込 知らない若い人たちは、自然農法と 必要性や、「自然」と農産物の安全 いますが、すべての農法のベースに 極にある農法であるように思われて しかし消費者に向けの定義付けの 基本だと思います」(山形県 又は、 現在の農法の対 地域によって 料

う見方もあるようだ。

手」(埼玉県・U氏・農業者)

とい

分を売る〞マーケティング方法が上

結果的には、

商品のPR、

自

のは難しいのではないのでし て語られている気がします。 法などと、ただ一点だけを取り上げ を虫にかじられているから、 人の手を加えずに農産物を生産する 農業に関わる読者諸兄としては、 (鳥取県・T氏・農業者 葉っぱ 自然農

人々を紹介していこう。

「木村秋則」

現象に深く関わる

り気になる存在。

それでは次頁



ずつ売れ続け、 なぜ農業とは縁遠い若者の心をとら 40代までで約9割を占めるという。 000部からスタート。 る期待はされず、 こともあって、当初はそれほど売れ 取り上げる分野が「農業」という 発売から約2年で26万部にまで 読者層は20代が約4割で、 口コミで話題が広が 初版は少なめの6 それが少し

ですが、作者の石川氏が熱のこもつ 作ろうと思えばすぐに本はできたの すでにテレビで取材をしていたので 越した印象を受けて面白そうだと思 それで木村氏に会ったら、非常に超 げた際、司会の茂木健一郎氏から、 フェッショナル』で木村氏を取り上 誕生したきっかけを振り返る。 担当編集者の大島加奈子氏は、 ン『奇跡のリンゴ』(幻冬舎) だった。 が木村氏に密着したノンフィクショ なったのは、 秋則氏の著作。 書店を覗けば 培ひとすじに』 ったので、取材をお願いしました。 いよ」と教えていただいたんです。 感動した。これは本にした方がい NHKのドキュメント番組 ンゴが教えてくれたこと』(日 本経済新聞出版社) ライターの石川拓治氏 角を占めている木村 ブームの火付け役に (創森社) など、 『自然栽 ープロ

年の年月を費やしています」 た取材を続けたため、 完成まで約2

して認知を広げていった。

うか。またこの本は木村氏に対する う対象に寄り添って、成し遂げた部 性が共感を呼んだのではないでしょ り越えていくか、であり、 りはないんです。この本のテーマ んです」 分にスポットライトを当てたかった ありません。 賛否両論を取り上げて、業績をジャ 、困難にぶつかった時、 えることができたのだろうか 「実は農業本として出しているつも ・ナリスティックに検証する本でも あくまでも木村氏とい 人はどう乗 その普遍

発やビジネス書のコーナー 内容がわかりやすく伝わり、 れていた同書は、困難を乗り越える ョンや農業系書籍の棚を中心に置か と依頼。結果、最初はノンフィクシ 肌で判じる描写を多く入れてほしい 的な説明より、土の匂いや自然など、 者の石川氏にはリンゴに関する学術 てもらえる内容にしようと考え、 農業に無関係の人にも興味を持っ 自己啓

たヒットなのかもしれない。 う言葉に惹かれるのでは」と分析す が起きるのを求めて、 した。それについて大島氏は タイトルに「奇跡」のつく本が流行 した時代だから、 ちなみに同書以降、出版業界では 『奇跡のリンゴ』は時代が求め 思いがけないこと ″奇跡″ とい 「閉塞

想が聞こえてくる。

「木村秋則」現象を追う~

と語る。 マーケット・福島屋の福島徹社長は、 栽培の農産物も扱っているスーパー 物に追い風は吹いているのだろう 上は、業界全体で見て壊滅的に悪い か。東京都羽村市を拠点とし、 いわゆる自然食品の売 自然

村秋則氏の本が注目される

はたして自然栽培の農産

なくても、 くても、 ら、見てくれが悪 自然食品なんだか と。もうひとつは、 なってしまったこ れを気にしなく でマーケットがそ だから、情報過多 あまりに多いもの 品、の打ち出しが ひとつは、自然食 はふたつあって、 「考えられる理由 おいしく 少し高

外の関連商品の売れ行きはほどほど が銘打たれた商品ですら、 が先まで続くと思わないほうがいい く売れるのは一過性の現象で、それ だから私は、 勢に消費者の気持ちが離れたこと。 くてもしょうがないよね、 知名度はダントツの「木村秋則_ みんなに言っているんです」 自然栽培を名乗れば高 という姿 リンゴ以

> こだわる人が多いので、 取り組む生産者には、 まざまです」との声も。

と契約して、 だ。実際、 だという。 ても最終的な手取りはいい」との感 しており、農家からは「減収になっ 入りつつある自然栽培の農産物。そ それだけで動いたが、今や袋小路に 中で福島屋が注目するのがコメ かつては生産者の名前をつければ 福島屋では何軒かの農家 自然栽培のコメを販売

> するケースもあるとのこと。 わってコメを探してくる場合に紹介 とだ。その他でも「無農薬」にこだ

のか、 掲げるのが、加工、だ。 栽培の農産物は、エネルギーがある 「加工すると、じっくり育てた自然 そしてもうひとつの突破口として 結果としておいしくて、 アミノ酸値やミネラル分が豊 非常

料品店から見た 然栽培のコメの価値

㈱福島屋 代表取締役社長 徹

法のコメなら全部おいしいわけでは いしいコメを作る人が多いというこ ありません。作り手によって味はさ くと、「あたりまえですが、自然農 然栽培のコメを使う担当者に話を聞 ただし店頭で自 食味や品質に 自然栽培に 結果的にお 売 略のキーワードのひとつが 家に限った話ではなく、 に仕上がりがいいんです。

> 扱っているので、 に悪くないんです」 工度の高いプライベートブランドを 業績的にはそんな

向に向かうのでは」と予想する。 に並ぶような、薬ではなく通常の食 で健康を確保する、医食同源、 ついて、「最終的にドラッグストア は、さらなる自然栽培食品の将来に 加工に可能性を見出す福島社 0) 方

理想の食料品店とは

だという。 イテムとして必要になってくるもの のテーマであり、自然栽培のコメや それよりも今、 つもりはありません」と言い切る。 我われは自然栽培の食品に特化する めて来ているわけではない。だから めているわけで、自然栽培だけを求 安全なものなど、いろんな要素を求 を入れる福島屋だが、「福島屋に来 店されるお客さんは、おいしいもの、 いい食料品店」を作ることが最大 確かに自然栽培の商品開発にも力 加工品はその中のひとつのア 世間に欠落している

が一役買ってくれればいい」 経営する理想に向かって、 地域に根ざし、 とらえているから安全・安心で、 ムに乗るのではなく、食をちゃんと おうと思った時に買える店のこと。 「いい食料品店とはコマーシャリズ 地域を理解しながら 自然栽培 買

高いものは当然日持ちがよくなるか 工したっていい。だから福島屋の戦 してくれたものを、我われ小売が加 技術は絶対に必要。ただしそれは農 農業が健全経営するために加工 グループは小さいけれど加 農家が生産 加工度の 『製造小

入」の特集を読んでいるあなたの 外からいろいろな人たちが訪ねて来 外からいろいろな人たちが訪ねて来 ただろう。親戚や友人、あなたの作 ただろう。親戚や友人、あなたの作 ったコメや野菜を買った人、観光の パンフレットを読んだ人などなど。 小売業や外食業のバイヤーもやって 来る。新聞、雑誌、テレビの取材を 来る。新聞、雑誌、テレビの取材を

こうした都市生活者は、普段、アスファルトとコンクリートに囲まれて暮らしている。食事は、家で作って食べることもあるが、外食したり、完成品や半完成品を買って来て食べることも多い。とくにランチがそうだが、朝食や夕食でも、コメを研ぎ、だが、朝食や夕食でも、コメを研ぎ、だしを取るところから作るという場でしを取るところから作るという場でしを取るところから作るという場でしている。それでも、子供の頃は母親の手作りのものを食べて育りは母親の手作りのものを食べて育りは母親の手作りのものを食べて育りと関係を表している場合もある。

を想像してみて欲しい。
き、どのような心理状態になるのかき、どのような心理状態になるのか

ら離れて暮らしている。だから、圃も多いが、もう何年も山や原っぱかている。もともと田舎出身という人慣れない場所に来て頭の中は混乱し慣れない場所に来て頭の中は混乱し間がないが、もう何年も山や原っぱかに「緑はいいですね!」誰しも口々に「緑はいいですね!」

場、樹木、山の緑に圧倒され、空の広さに驚き、狭く、ときに未舗装の道路に慌て、草いきれと熟していない堆肥の臭いにむせび、まとわりつく虫たちに気を取られている。普段とは別世界に来ていることを五感でめいっぱい感じ取り、興奮状態に陥っているのだ。

そして、あなたの家の敷地に入った途端、彼らは客となる。その人がたとえ *セレブ*であっても、客とたとえ *セレブ*であっても、客とは嫌いでも手を付ける。主に了解をでいる間は主に従う。出されたもの取ってトイレの場所を教えてもらうながにおと心得ている。

がかかった状態にある。気を遣って行動、思想、感情に制約気を遣って行動、思想、感情に制約のまたに、あなたにいまり、農村のあなたを訪ねるお

そんな、なかば "テンパった* 状をの客に、あなたはこんな話をする のではないか。「今の都会の人の食 生活は間違っている」「おいしいも のを食べていない」「本物のトマト のを食べていない」「本物のトマト のを食べていない」「本物のトマト しょう」。

であると宣言し、しつこく説明し、 は、よそとの違いを強調しもするだろい。そして、話の信憑性を高めるために、あなたは客を圃場にいざなう。 素人に圃場の善し悪しの区別など付 素人に圃場の善し悪しの区別など付 素人に圃場の善し悪しの区別など付

たくそなものでも、客はそこに生命

活動を感じて感心するはずだ。
あるいは手作りの実験の結果を見けれども、いい臭い、を発しているけれども、いい臭い、を発しているけれども、いい臭い、を発している野菜の切片」などを示されて、その野菜の切片」などを示されて、その野菜の切片」などを示されて、そのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのであり、ケチを付けに来たのでおり、ケチを付けに来たのでは

そうして、客がなるほどとうなずき続け、膝を打ち続けて首とてのひらが痛くなった頃合いで、あなたのらが痛くなった頃合いで、あなたのなどと、みずみずしい野菜を持ってなどと、みずみずしい野菜を持ってなどと、みずみずしい野菜を持ってなどと、みずみずしい野菜を持ってなどと、みずみずしい野菜を持って

ものとは、鮮度も熟度も違うだろう。〜2日たって都会のスーパーに並ぶらうまいものではないか。収穫後1たいていの作物は、収穫したてな

あなたは自分の"農業"を 的確に伝えているだろうか?

そして、あなたは自分の農法が優

て行く瞬間に、

私は何度も立ち会っ

「木村秋則」現象を追う~

そのようにして、

実のところうま

あると、 を誇示して見栄を張るチャンスでも なるし、 遠路はるばるやってきたこともあっ いと感じたいと思っているものだ。 本当だ! あなたの説教に対するお礼にも 口に入れたものはなるべくうま 農業を理解する頭脳と感性 彼らは知っている。 おいしい!」と叫ぶこと

しかも、相手はここまでの話を聞き、

だ」と思い込む。 てつぶやきもする。すると、 ものかと思い、「本当だ」と呼応し が「うまい!」と言えば、そういう 半信半疑で聞いていた人でも、 当だ」の応酬になること請け合いだ。 言った本人も「ほら、 夫婦や仲間数名で来た人たちなら、 だから、その場は「おいしい」「本 やっぱり本当 最初に 連れ

にあり得ないと思うまでになる。 法はあなたが実践しているもの以 高の農家はあなたであり、 人が現れようが、もはやこの世で最 家の作物のほうが優れていると言う 水掛け論を浴びせようが、よその農 もうあなたの虜だ。ほかの誰が 度この体験をしてしまった人 最高の農

ANA機内誌『翼の王国』2010年4月号。 中国人ジャーナリストによる中文と英 文の記事の冒頭に、木村氏の笑顔とリ ンゴの写真が掲載されている。

訓之 齋藤

夫も認められない農法が「日本に(世 くもまずくもない作物や際立った工

ここにしかないもの」

になっ

さいとう・さとし●1964年北海道生まれ。 中央大学文学部卒業。『月刊食堂』『日経レ ストラン』などの記者から本誌副編集長を 経て、現在フリーランスのライター兼編集 者。外食、食品の分野を中心に、ビジネス 誌やWebサイトに記事を執筆している。

ことがわかるだろう。 じ手順によって生まれるものである

み返していただけば、農法ショック 拗に研究され、実践されてきた。 を行なう人々などの特殊な世界で執

読

は客を迎えた農家の故意か否かによ

マインド・コントロールと同

発生させてしまう農法ショックその だからだ。 ことは、 同じ仕組みで人の心に影響を与え は、今は保留しておく。というのは ものが善悪いずれであるかの判断 許したくない。しかし、 けトクをしようとすることを、私は コントロールを施して、自分たちだ 行なう人が、善良な人々にマインド ブランドの価値を創り出し、 カルトやいかがわしいビジネスを 他の業種にも見られること 農家がつい 高める

な会社が売る厳重に包装された化粧 的であると断ずることも 布団などの催眠療法ならそれが犯 ではそれなりに分別のありそう できる

値観と世界観を植え付ける技術があ

る。これをマインド・コントロール

カルトやマルチまがい商法

価値観や世界観を否定し、

新しい価

的にも心理的にも不自由な状態を強

人をパニック状態に陥ら

せ、

いて、その上でその人が持っていた

と呼んでいる。

私はこの現象を「農法ショッ

Ź

うもなかなか犯罪とも言い切れなさ そうな場合がある。 る寿司店などはどうかと言えば、 ない金額の伝票がそっと差し出され ビニール製バッグなり、 品なり、 有名なデザイナー 見たことも が作った سط

ことはない。ただ、 のように考えさせられた。 じことが、メディアで再現されてい あり、農法ショックにとりつかれた 見てきた農法ショック発生の現場で き、実際に読んでみたとき、まっさ ると感じたのだ。そして、 人々の頑迷な言動だった。あれと同 きに連想したのは、これまで何度も れた本が飛ぶように売れていると聞 私は木村秋則氏という方に会った 氏について書か 改めて次

律に定めていることと齟齬があるよ されるものではない。 邪気がないというだけですべてが許 正大に行動すべきだ。この仕事は、 値の核心が、 やっていることや伝えようとする な目標と良質な知識を持って、 し得る。であればこそ、誰しも善良 を変え得る恐るべき力を簡単に発揮 農家とマスコミは、人の心の有り様 る宿命と権利を持っている。まして、 人は、人の心と行動に影響を与え 学校で教えることや法 少なくとも、 公明

弘前大学 農学生命科学部教授

学部農学科卒。北海道大学農学部助 バード大学生物進化学部客員研 究員などを経て現在に至る。専門は草地 植物進化生物学、作物生理学

なぜ病気が減っていくのか、 今の科学では説明できない。



「無農薬・無肥料」という農学の枠組みから捕らえていると、木村秋則氏の「自然栽培」 の本質を見失うかもしれない。生態学の視点が今、彼の農法に可能性を見出している。

うようなものではないか」

また木村氏の「自然栽培」は、

福岡正信氏の自然農法とは かなり違う

という人間が合成して作りあげた、 それぞれ実体はかなり違う」と解説 を可能にしている。化学肥料や農薬 培」に大きな可能性を感じている。 2つを専門分野に持っている彼は 授の杉山修一氏だ。農学と生態学の するのは弘前大学農学生命科学部教 システム」と杉山氏は表現する。 自然界にないものを農地に投入する 物を排除することで、高い生産効率 養分を供給し、農薬で作物以外の牛 化学肥料を外部から投与して作物に 科学者として木村秋則氏の「自然栽 「そもそも近代的な農業技術とは 有機農法、自然農法、自然栽培と

そのかわり土の中の微生物の力を利 的な例が、有機農業で認められてい では基本的に外部から投入しない てもいいと考える」というわけだ。 とも自然界にある鉱物だから、入れ るボルドー液。硫酸銅と石灰は両方 ではなく堆肥を投入する。さらに端 を投入する。だから例えば化学肥料 たは同じ。でも、自然界にあるもの 然栽培」 や福岡正信氏の「自然農法 有機農業も不足を投入する考えか これに対して、木村秋則氏の「自 では有機農業とは、何だろうか。

> にはかなり違う。福岡氏は何もしな の相互作用によって病害虫を抑制 に多様な生物相を発達させ、 にすることで作物に養分を供給 い放置栽培だったのに対して、木村 「ただし自然農法と自然栽培は実際 また農薬を使わないことで農地

酢を撒いたりもする」と杉山氏。 例外的な外部からの投入として、 する。化学肥料や堆肥は投入しない 強くして、悪い微生物を抑えるとい える〟と呼んでいる。良い微生物を と思う。私は〝微生物の関係性を変 いうと、それほど殺菌作用はない。 が、畑で育った緑肥を鋤き込んだり、 氏は積極的に畑に管理の働きかけを 「食酢は殺菌ではなく、違う目的だ つまり食酢は農薬の代替なのかと

術の柔軟性がすごくある。原理的に 耕起するわけでもない。そういう技 岡氏の不耕起栽培と違って、 能力を最大限に発揮させる農業形態 極めてしている。でも全部が全部、 空気中で乾燥して観察し、時期を見 田だと鋤き込む必要がある。ただ、 たりプラウをかけたりもする。 「ワラを分解させるのに、やはり水 作物そして生態系の持っている

「木村秋則」現象を追う~

だから研究価値がある 科学的に説明できない

や元素をまわしていく」 と地下の循環をよくしてエネルギー る。その活性を高めることで、 て、それを耕して微生物に分解させ ついて杉山氏は、こう解説する。 整える働きかけだ。この物質循環に によって微生物による無機化を促進 で養分を補うのではなく、 栽培のように、堆肥を投入すること に大変注力することだ。これは有機 土の中の微生物を活性化させること して、 「農地に雑草や大豆や緑肥を植え 木村氏の「自然栽培」の特徴 作物に養分を与える生物相を 物質循環 地上 は

ばいいのだろうか。 てくれるだろう。しかし、 窒素はマメ科植物の根粒菌が供給し られるのも「自然栽培」の特徴だ。 しばしば教科書にない観察力が求め 察し、土の中の窒素量を推定する。 植えるだけではない。それを引き抜 いて根粒菌のつきかたを定量的に観 ただ単に緑肥としてマメ科植物を その他の微量元素はどう考えれ リンやカ

に戻されると、 吸収できる。 に生やす。下草は自根では吸収でき 「例えばリンゴ園では下草を刈らず 下草が刈り取られて畑 根についた菌根菌から 利用可能なリンが土

> 素も特に補給しなくても不足してい だけ。つまり今まで利用できなかっ はまだよくわからない」という。 ないが、正直言ってそのメカニズム きるようにしている。 に入る。そもそもリンは土壌中にた たリンを、菌根菌を経由して利用で そもそも杉山氏が科学者として、 植物が利用できない カリや微量元

けていると、最初は病気にかかって 成の『ふじ』なのに、自然栽培を続 えだった。しかも、同じ遺伝的な組 薬を撒かなければ病気になって、病 今の農学では説明できない。昔は農 じる理由の一つは、そこに今の科学 ていく。これも説明できない」 気になれば死ぬというのが普通の考 で説明できない現象があるからだ。 いたのに、だんだんかからなくなっ てもそれが蔓延しない理由、これが 木村氏の「自然栽培」に可能性を感 「まず、彼のリンゴが病気にかかっ

レセプターをくぐりぬけて病原菌が 病原菌のレースと合うかどうかだ。 菌を認識するレセプターの構造が、 ていた。作物の生体膜上にある病原 なメカニズムで決まっているとされ い弱いというのは、ほとんど遺伝的 :物内に繁殖すると病気になる。 今までの農学では作物が病気に強

ば、 だから作物を病気から守りたけれ 遺伝的に耐病性がある品種を植

> が観察したことは、この2つだけで は説明できない。 ところが木村氏のリンゴ園で杉山氏 すか、主にその2つしかなかった。 えるか、殺菌剤を撒いて病原菌を殺

して興味深い」というわけだ。 るかもしれない。だから研究対象と が蔓延しないことと通じるものがあ 先端研究と、木村氏のリンゴに病気 や葉に棲むことで病気にかかりにく 植物にも自然免疫のようなものがあ くなるという報告もある。そういう た内生菌などの微生物が、 るのではないかと言われている。 「とはいえ生物学の先端研究では、 作物の根 ŧ

ほどほどに撹乱する技術 自然のままではなく

だと杉山氏は熱を込める。 はまだ科学的に十分研究されていな が少なくなったことは、生態系全体 世界は繋がっており、どれかの細菌 あるものだったとしても、 特定の細菌へのごく狭い選択毒性 それは使用していた殺菌剤が、仮に と、農地の生物多様性は豊かになる。 いが、たぶんものすごく大きなもの に競争して遷移しており、 に影響するからだ。微生物もお互い 化学肥料や農薬の使用をやめ その変化 微生物の

勘でわかったうえで、 「おそらく木村氏はそのあたりを、 畑の管理をし

> 山氏の考えだ。 ているのではないか」というのが杉

これは生態学の

「撹乱」という概

というと、そうでもない。むしろ自 系、つまり生産性が悪い状態になっ 然のままに放置すると貧弱な生態 ければ、豊かな生物相ができるのか 念で説明することができる。 てしまうのだ。 自然のままにして人間が手を加えな 実は、

植えたり、多様な作物を植えたりす なる。だからそういう状態を人為的 る。虫も食べないし、微生物も分解 ンを含む葉をつくる植物が優占す おくと最後には、 きる生産性の高い環境が作れる」 ることで、成長の早い作物も成長で に崩し、窒素固定するマメ科植物を で養分を必要とする生物は入れなく しにくい。すると循環が進まないの 「例えば白神山地のブナ林。 難分解性のタンニ 放って

のある技術になるかもしれない。 学的解明によって、 相を維持する農業技術なら、 ほどほどに手を加えて理想的な生物 する。「自然栽培」が自然の状態に を刈ったりすることを通じて、 里山で火入れをしたり、家畜の飼料 培には共通性があると杉山氏は指 持してきたことと、木村氏の自然栽 人が脈々と生産性の高い生態系を維 その良い例は日本各地の里山だ。 今よりも普遍 その Á



今の技術がすべてではない 自然栽培で大規模経営25ha



観察力がある。

あの観察力を持って

技術の基礎ができている。

いかに

は何が優秀かというと、

ずば抜けた

作物をきちんと見ること。

自然栽培は大規模経営に向かない技術なのか? 普遍性のある農業技術として確立しうるのか? 自然栽培で大規模経営をしている農場があると聞いて北海道幕別町を訪ねた。

折笠氏の経営面積は約**生産性よりも継続性**

うち25 haを自然栽培、残りの45 haを折笠氏の経営面積は約70 ha。その

それに対して撒く農薬、また出る新 いから撒く違う農薬。作物の性質を しい病気、それまでの農薬が効かな 業のありかたを模索している。 親子で地力を維持できる持続的な農 を取り戻したい」を合言葉にして、 プになり、表彰された経験もある。 に農業経営を変えたのだろうか。 きちんと見ていなかった」という折 た。肥料を入れるために出る病害虫、 た。それ以来「開拓時代の豊かな土 大量の施肥が必要なビートをやめ しかし地力の衰えに危機感を持ち、 「それまでの農業は対症療法だっ 自然栽培の導入は、 どのよう

はこう語る。

山灰土壌部門でビートの反収がトッ

父親の折笠秀勝氏は十勝地区の火

氏から学ぶことについて、

折笠健氏

の辺がすごく勉強になる」木村秋則まうようなことを教えてくれる。そ

てどこに重点を置くか、見逃してして観察するか、観察のポイントとし

だろう。

無肥料・無農薬を継続する

まず驚かされるのが、

緑肥の割合 21 ha だ。

「木村秋則」現象を追う~

ウモロコシ0・5 カイコガネ、 そして緑肥(ヘアリーベッチ、 さやあかね) 小豆3·3 ha、 1 ´リーベッチ、 ク)8 haとなっている。 特別栽培レベルの圃場45 自然栽培の圃場25hの内訳は、 (大袖の舞) ジャガイモ(メークイン、 ノーザンルビー、 黒大豆1 20 hą 2 9 ha 花標津、 カボチャ1・7 ジャガイモ(花標津 エンバク) 7 ha(ゆきぴりか) ha、黒千石1·**2** ha、そして緑肥

ha の 内 訳

ホッ

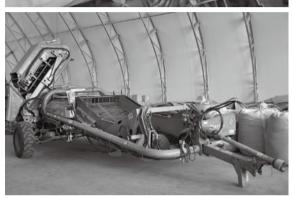
春小麦1 ha

ha

緑肥は植物として一生を終える状

エン





上:折笠農場の自然栽培では1/3が緑肥、1/3がジャガイモ、1/3がマメ科作物という設計で輪作する。 下:収穫にはリチャード・ピアソン社のジャガイモ用2畦ハーベスタを使用する。

それぞれ圃場の約3分の1は緑肥を るが継続性を選んだ結果だ。 作っている。当然、 ために自然栽培でも特別栽培でも、 生産性は低下す

大

特別栽培レベルで栽培している。

そして原料として出荷するのではな その理由は 態まで育ててから、 父親の代から自ら顧客を開拓してき 用 というのが師匠の口癖だ。これを父 0) に帰る、からだという。 粉々にして乾燥させ、畑に鋤き込む。 だして生協などに販売している。 の代から40年近く続けている。 近くの山で物質循環を理解する 主力はジャガイモ。 農協には ″山の葉は枯れてから土 一切出荷していない。 チョッパーで 基本的に青果 「まず自分

シャドークイ インカのめざ

hạ

١

草には、 システムを使っている。 栽培にはソイルコンディショニング 設備投資を重ねてきた。 肥料代は除草の人件費で消える。 はみのる産業の畑作管理機にキュー ようにして除草する。 ホーのカルチで行う。浮いた農薬と 播種済みの畝を崩して再び整畦する

発芽後の除草

特注の専用除草機を使い

4年目からソウカ病が消える 土や作物の変化は?

だいたい10㎏で1000円ほどだ 培レベルの反当たり出荷量が約21 当たり出荷量が約800㎏。 きる出荷先に販売する。 無肥料で付加価値をつけることがで から反当りの出荷量が半分になって その倍以上の価格で出荷できる。 も採算が取れる。もちろん無農薬 十勝で青果用のジャガイモの価格は 自然栽培のジャガイモの場合で 約半分ということになる。 自然栽培のジャガイモは反 特別栽 だ

は花標津やさやあかねといった、 る豊富な品種の中から、 病抵抗性の品種を導入している。 で選果場があるから、 最初はメークインで無農薬に挑戦 うまくいかなかった。 自然栽培に 北海道にあ 近年 自 疫

製品として出荷できるように、 大規模な貯蔵庫もある。 自前の選果 発芽前の除 出荷を半分にするより、 でない品種がある。 っても供給すべき」 して供給を安定させる必要がある。 つの品種に決めないで複数の品種に 適した品種が選べるのが強みだ。 「収量は年によってい 自然栽培では一 い品種とそう 品種が変わ

というのだ。 最後まで立ってる。理想的な草勢だ 花標津は木が暴れやすいが、 目に試験場職員が生育を見にきて らないなど心配の連続。しかし2年 年頃は、まず芽が出てくるか心配だ いたのを聞いて自信を感じた。特に、 くならない、色が薄い、畝がふさが った。そして生育が遅い、葉が大き 「ものすごくいいじゃない!」と驚 思えば自然栽培を初めた200 、それが

弱い品種だが、 必ず出ていたソウカ病が、 氏は今でも、 科を必ず入れたい。正直言って折笠 そのなかには根粒菌を期待してマメ ら消えたのだ。 た。 できない。ただ確実にいえる変化と に使って、残りの20hで作物を作る。 経営すること。そのうち10hを緑肥 現在の目標は、 作物がどうかわってきたか明 自然栽培を始めた7年前、 ジャガイモのソウカ病が消え 土がどう変わってきた 花標津はソウカ病に 自然栽培の畑では出 自然栽培で30 ha 4年目 毎年